



島根大学環境報告書 2023

SHIMANE UNIVERSITY ENVIRONMENTAL REPORT



写真のテーマ：島根と海ごみ

環境報告書2023 CONTENTS

01 学長からのメッセージ	1	05 グリーン購入の促進	18
02 本報告書の対象範囲と大学の概要	2	① グリーン購入の方針	
① 本報告書の対象範囲		② グリーン購入・調達状況	
② 島根大学の概要		06 島根大学SDGs行動指針	20
③ 島根大学環境マネジメントシステム（EMS）体制図		07 教育・研究活動に関するインプット・アウトプット	21
03 環境教育・環境研究	5	① 2022年度のインプット・アウトプット	
① 教育学部における学生の環境リテラシーの向上		② エネルギー消費等の経年データ	
② 島根大学生協同組合から排出される生ごみの肥料化プロジェクト		08 環境に配慮した具体的な取組	24
③ 学生の環境に対する取組		① エネルギー消費の抑制	
④ 環境研究成果の普及推進		② 環境負荷を低減するための3R等の推進活動	
04 島根大学の環境への配慮に関する考え方や仕組み	9	③ 診療に伴う環境負荷の低減	
① 島根大学憲章		④ 環境関連法規制等の遵守状況	
② 島根大学環境方針		⑤ 安全で快適なキャンパスを目指して	
③ 環境マネジメントシステム（EMS）によるこれまでの主な取組		⑥ 労働安全衛生の推進	
④ 環境マネジメントシステム（EMS）の見直し			
⑤ 2022年度の環境目的・目標評価結果			

本報告書と環境報告ガイドライン（2018年版）との対照表

この環境報告書は、環境省が発行した「環境報告ガイドライン（2018年版）」に基づいて作成しています。

ガイドラインの項目		本報告書の該当頁数
環境報告の基本的要件		
1. 環境報告書の基本的要件	(1) 報告対象組織	2
	(2) 報告対象期間	2
	(3) 基準・ガイドライン等	目次
	(4) 環境報告の全体像	目次
2. 主な実績評価指標の推移	主な実績評価指標の推移	-
環境報告の記載事項		
1. 経営責任者のコミットメント	重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	1
2. ガバナンス	(1) 事業者のガバナンス体制	4
	(2) 重要な環境課題の管理責任者	4
	(3) 重要な環境課題の管理における取締役会及び業務執行組織の役割	-
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	(1) ステークホルダーへの対応方針	-
	(2) 実施したステークホルダーエンゲージメントの概要	5～8
4. リスクマネジメント	(1) リスクの特定、評価及び対応方法	-
	(2) 上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置付け	-
5. ビジネスモデル	事業者のビジネスモデル	9, 10, 12～17
6. バリューチェーンマネジメント	(1) バリューチェーンの概要	-
	(2) グリーン調達の方針、目標・実績	18～19
	(3) 環境配慮製品・サービスの状況	18～19
7. 長期ビジョン	(1) 長期ビジョン	20
	(2) 長期ビジョンの設定期間	20
	(3) その期間を選択した理由	20
8. 戦略	持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	20
9. 重要な環境課題の特定方法	(1) 事業者が重要な環境課題を特定した際の手順（実施手順）	11～12
	(2) 特定した重要な環境課題のリスト（判断結果）	11～12
	(3) 特定した環境課題を重要であると判断した理由（判断基準）	11～12
	(4) 重要な課題のバウンダリー（事業活動の範囲）	11～12
10. 事業者の重要な環境課題	(1) 取組方針・行動計画	11～12
	(2) 実績評価指標による取組目標と取組実績	21～23
	(3) 実績評価の算定方法	21～23
	(4) 実績評価指標の集計範囲	21～23
	(5) リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法	-
	(6) 報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告	-

01 学長からのメッセージ



島根大学は大学憲章において、「自然と共生する豊かな社会の発展に努める」とともに「環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える」と謳い、教職員、学生が協同して環境改善に取り組んでいます。その取組は、2004年に全学としてISO14001の認証取得を基本方針として環境マネジメントシステム（EMS）構築を行うことを決定し、2006年3月には松江キャンパスにおいて、そして、2008年には出雲キャンパスを含めてISO14001の認証を取得しました。このように本学は全国に先駆けて附属病院を含む全キャンパスにおいてISO14001の認証を受け、積極的に環境改善に取り組んできました。2013年度から松江キャンパスでは認証による取組から自立的な環境マネジメントシステム（EMS）活動に切り替え、「環境マネジメントシステム改善委員会」を評価組織として設置し、「環境教育」「環境研究」「エネルギー」「3R

（リデュース・リユース・リサイクル）」「実験系」「CA（キャンパスアメニティー）」の項目ごとに各部局が中心となってPDCAサイクルによる環境改善を図るなど、新たなステージにおける活動を実践しています。出雲キャンパスでは、従前通りISO14001を基本に環境改善を図ることとしており、環境改善に取り組んでいます。本学には、松江、出雲両キャンパスにわたり附属病院や多くの実験系研究室があり、環境負荷が大きい事業体です。その意味からも、環境改善の取組は本学の大きな社会的責任と考え、今後も環境改善の取組を推進していきます。

2022年度は大学の様々な活動において、新型コロナウイルス感染症対策による制限が余儀なくされる状況下ではありましたが、感染拡大防止に配慮した上で環境改善の取組を行いました。

本学の環境改善の主な活動として医学部・附属病院では、5つの作業部会「環境教育・研究」「エネルギー」「生活系（ゴミ等）」「実験系（廃液等）」「診療系」による感染性医療廃棄物の分別徹底や一般廃棄物排出量の削減といった様々な環境改善に取り組みました。また、松江・出雲両キャンパスでは、特別副専攻「環境教育プログラム」の継続的開講、学部単位における全学生を対象とした環境マネジメントシステム（EMS）基本教育、環境教育・環境研究の実施とその成果の普及、実験・診療等による環境負荷の低減、節電等によるエネルギー消費の抑制、排出ごみの削減、安全・快適なキャンパス構築、学生EMS委員会による取組等、様々な取組を継続実施してまいりました。これらの継続的取組により、本学構成員の環境に対する関心・意識が向上し、成果も着実に得られています。環境改善の取組は、地道な活動を継続していくことが最も重要と考え、今後も粘り強く実践していきたいと考えています。

島根大学は、自然と共生し、環境と調和した持続可能な社会の形成を目指し、SDGs及び2050カーボンニュートラルの実現を目指して、学内環境の改善を行うとともに、環境改善に資する研究による社会への還元や環境への意識を強く持った学生の育成を推進していきます。

「島根大学環境報告書2023」をご高覧頂きまして、お気づきの点等ございましたらご教授いただければ幸いです。

島根大学長

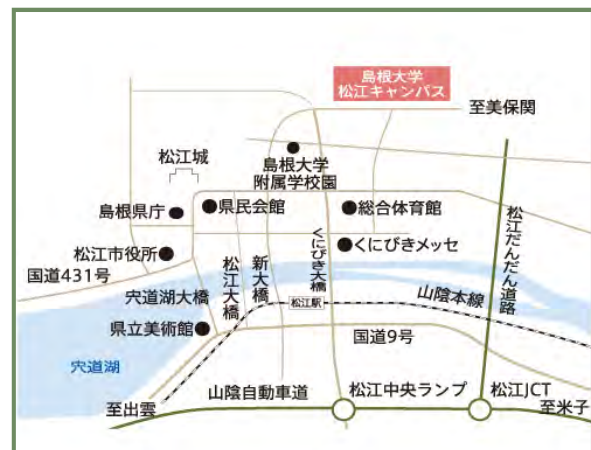
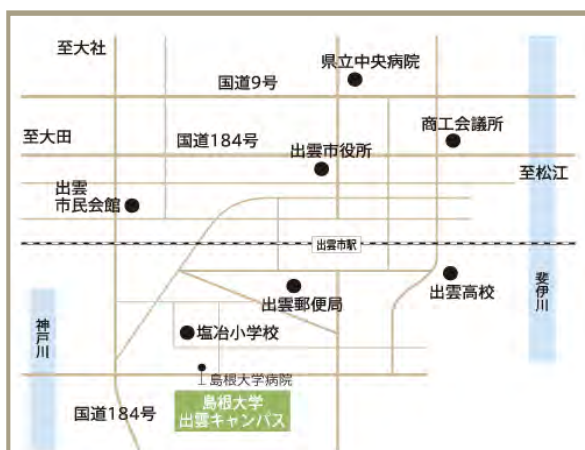
俣部泰道

1 本報告書の対象範囲

- 対象期間 …… 2022年4月から2023年3月まで（期間外の事項については当該箇所に明記）
- 適用範囲 …… 国立大学法人島根大学 松江キャンパス及び出雲キャンパス

2 島根大学の概要（2022年5月1日現在）

- | | | |
|------------------------------------|-------------------------|---------------------|
| ● 創立年 …… 1949年 | ● 学生数(学部・研究科) …… 6,056人 | ● 病床数 …… 600床 |
| ● 敷地面積 …… 6,484,266 m ² | ● 附属学校生徒数 …… 747人 | ● 外来患者数 …… 296,016人 |
| ● 延床面積 …… 286,360 m ² | ● 教職員数 …… 2,273人 | ● 入院患者数 …… 186,529人 |



川津団地（松江キャンパス）

- 松江市西川津町1060
- 敷地面積 201,195 m²
- 延床面積 126,755 m²

	学生数 (留学生含む)	教職員
法文学部	830	54
教育学部	576	57
人間科学部	344	26
総合理工学部	1,758	110
生物資源科学部	882	86
人間社会科学研究所	41	-
教育学研究科	38	14
総合理工学研究科	7	-
自然科学研究科	433	-



総合理工学部1号館



次世代たたら協創センター

大輪団地（松江キャンパス）

- 松江市大輪町416-4・菅田町167-1
- 敷地面積 54,688 m²
- 延床面積 15,267 m²

	生徒数	教職員
附属幼稚園	53	7
附属義務教育学校前期課程	343	46
附属義務教育学校後期課程	351	



附属義務教育学校 後期課程校舎

塩冶団地（出雲キャンパス）

- 出雲市塩冶町89-1
- 敷地面積 222,625 m²
- 延床面積 133,148 m²

	学生数	教職員
医学部	921	330
医学系研究科	213	
附属病院	-	1,212

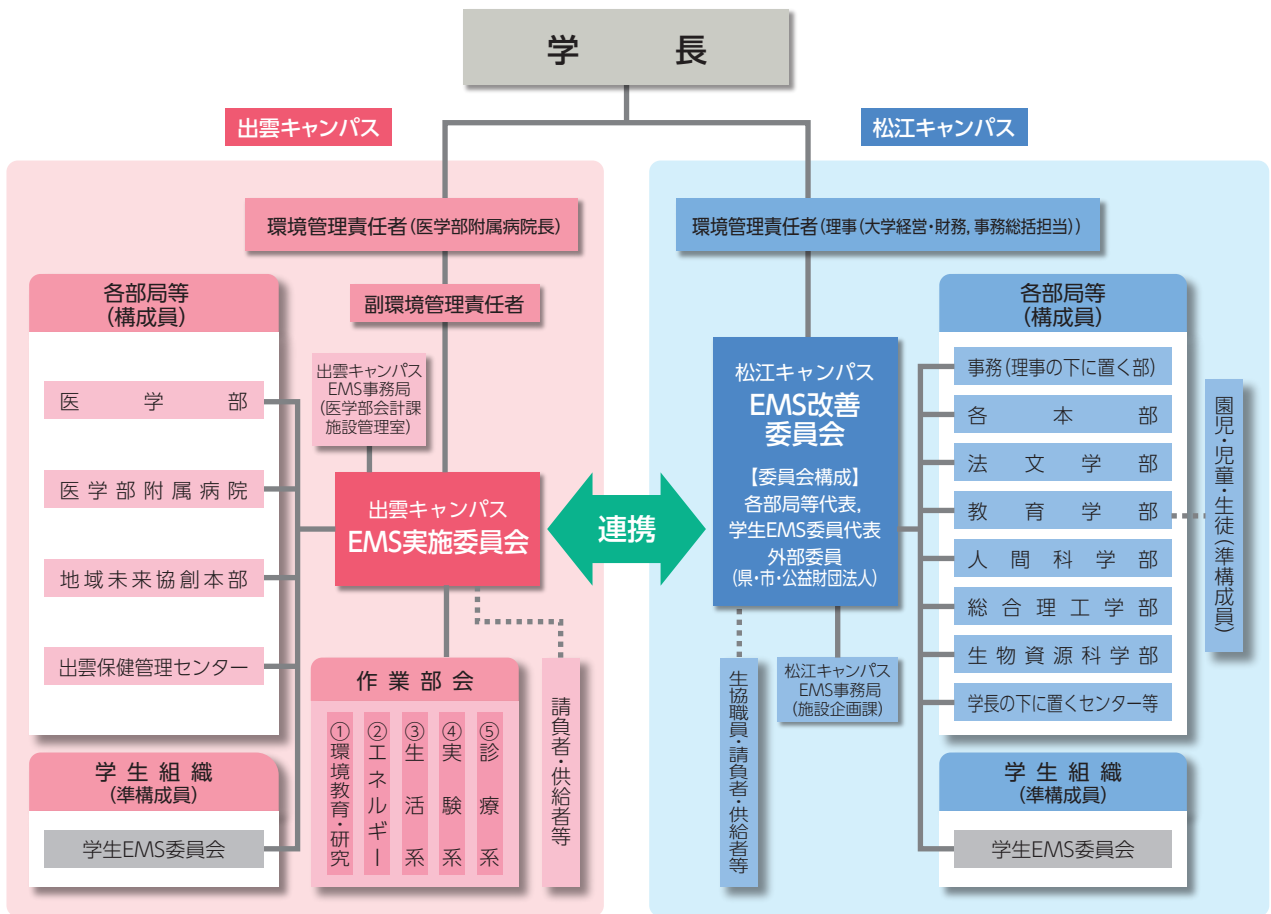


医学部附属病院 外来・中央診療棟

その他団地

職員宿舎、学生寮、三瓶演習林、匹見演習林、隠岐臨海実験所、その他

3 島根大学環境マネジメントシステム（EMS）体制図





1 教育学部における学生の環境リテラシーの向上

～在学生ガイダンス等において環境マネジメントシステム（EMS）基本教育を行う～

2022年度はコロナ禍ではありましたが、学生への環境マネジメントシステム（EMS）教育の一環として4年生の授業（教育実習の一環）として、松江市内の小学校の屋外学習を通して、自然環境（特に大地のつくり・地域の成り立ち）を学ぶ機会を提供しました。環境寺子屋（※）の活動として、松江市と共同で「親子で学ぶ松江城環境学習」を実施し、13名の学生が講師役として市民への環境教育を行いました。また、SDGsに関しては、特に理科・技術分野で同じく環境寺子屋が主催し、学生の学びと地域への貢献活動を多数行いました。

野外での学びと子ども達を含めた市民との交流は学生にとって得るものが大きいため、次年度以降も継続させ、今年度充実した環境寺子屋を維持、発展させていきます。



親子で学ぶ松江城環境学習の様子



※「環境寺子屋」とは島根大学教育学部が立ち上げた環境、理科及び家庭科における科学的な魅力や力量をつけるための体験講座です。

2 島根大学生協同組合から排出される生ごみの肥料化プロジェクト

—生物資源科学部 附属生物資源研究センターにおける取組—



島根大学における食品ロス・ゼロを達成するため、2021年度に続き、生協食堂から排出される食品廃棄物を高温好気発酵分解装置（ミシマックス）により減容化することで約2トンの肥料を得たことから、2022年度は、得られた肥料を国内で初めて大学オリジナルブランド肥料（キャンパスト）として登録し、キャンパストは玉湯マルシェ及び松江市農林水産祭で販売しました。また、研究室に所属する4年生が、得られた肥料の肥効について卒業論文に取り組みました。

2023年度は、キャンパストを本庄総合農場での栽培に利用するとともに、医学部附属病院食堂から排出される生ごみへの展開を検討しています。



キャンパスト



玉湯マルシェでの販売



松江市農林水産祭での販売



3 学生の環境に対する取組

学生EMS委員会は、島根大学の環境マネジメントシステム（EMS）に学生の視点を取り入れることを目的として、学内外で大学と協力し主体的に活動しています。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症対策の制限が少しずつ緩和されていく中で、再び例年通りの活動や地域の活動に積極的に取り組むことが出来ました。

松江キャンパスでの取組（2022年度）

学生EMS委員会、新たなステージへーコロナ禍を乗り越えもう一度活気ある活動をー

①定期活動（キャンパス内のごみ拾い、ディベート会、定例会議）

キャンパス内のごみ拾いは、昼休みに委員が集まって毎週実施しています。大学のボランティア活動として認定されており、島大生なら誰でも参加することができます。また、ディベート会は12月から新たに開始しました。ごみ拾いと合わせて毎週月曜日の夜に隔週で実施し、環境やSDGsに沿ったテーマについて、勉強もかねて賛成・反対に別れてディベートを行っています。定例会議は金曜日に実施し、様々な企画・課題について話し合っています。

②緑のカーテン（5～9月）

夏の強い日差しを和らげ、温度上昇を防ぐことのできる緑のカーテンを食堂ソーニョの前に設置しました。松江市環境市民会議からゴーヤの苗を受取り、地域の方の協力のもと9月末まで設置しました。また、収穫したゴーヤを使って料理会を実施しました。

③中海・宍道湖一斉清掃（6月）

ラムサール条約湿地である中海・宍道湖の周辺自治体が毎年実施している一斉清掃に参加しました。学生EMS委員会は、宍道湖の美術館・白湯公園周辺のごみ拾いをしました。

④桂島清掃（9月）

松江市島根町の海岸、桂島で去年から二回目になる海のごみ拾いを実施しました。桂島観光協会のご協力のもと、多くのごみを拾うことが出来ました。

⑤衣服回収・交換会（10月）

学生から使わなくなった服を回収し、希望する学生に使ってもらう取り組みとして今年度新たに企画、実施しました。全70着を回収し、SNSを使って紹介し、大学会館において集めた服の交換会を実施しました。回収した服の一部はリサイクルショップへ持ち込み、売上金は「しまね社会貢献基金」へ募金しました。

地域で実施される活動も含め、少しずつ例年通りの活動を再開することが出来ました。特に、ディベート会などでは委員同士で交流する機会も多く設けることが出来ました。

これからは新たな環境への取り組みが必要となり、これまでにない環境マネジメントが求められると考えます。形式的に例年通りの活動を行うのではなく、従来の課題であった役割分担や情報共有を欠かさず、委員一人ひとり、学生・大学・地域の人にとって有意義な活動を目指していきます。



キャンパス内のごみ拾い



緑のカーテン



中海・宍道湖一斉清掃



桂島清掃

出雲キャンパスでの取組 (2022年度)

2022年学生EMS委員会の活動について

①自転車・食器寄付の呼びかけ

卒業等で自転車の処分が必要な学生のニーズと、使われなくなった食器や家具を廃棄するのではなく新入生に譲渡できないかと考え、3R活動の一環として自転車や食器等の寄付の呼びかけを行いました。

3年ぶりの開催ということもあり寄付が集まるか不安でしたが、多数の食器類や自転車を寄付いただきました。

今回、食器や家具の保管場所がなかったため、2023年度は早い段階から管理方法も含めて詳細に準備を進めていきます。また、寄付のお願いの周知方法や頻度を見直すとともに、譲渡される自転車については、所有者に防犯登録の解除を徹底します。



寄付された食器

②キャンパスクリーンウィーク

6月と10月に行われる島根大学のキャンパスクリーンデーに伴い、学生も参加できる活動をつくるため、キャンパスクリーンウィークを計画しました。

キャンパスクリーンウィークとは、汚れている場所を掃除すると参加学生にビビットポイントが付与されるという期間です。委員会としては、普段掃除する人がいない学生アメニティスペースや、壊れた傘や段ボールのゴミが放置されているロッカールームを清掃しました。

今回の参加学生は、委員会メンバーのみだったため、多くの学生に参加してもらえるよう今後の周知方法や期間を検討します。

今回の参加学生は、委員会メンバーのみだったため、多くの学生に参加してもらえるよう今後の周知方法や期間を検討します。



学生アメニティスペース及びロッカールームの清掃状況

③花壇整備

今年度は、医の庭の入り口に新入生を華やかに迎えることを目的として花植を行いました。

プランターに花を植え直し、医の庭の入り口付近に並べました。水やりは晴天が続いた時に委員会メンバーが行うこととしました。



花壇整備の状況

3年ぶりの保護者も参加できる入学式であったため、華やかに迎えることができたと思います。

今後は学内の使用されていない花壇が利用可能か確認し、これまで以上に景観がよくなるよう改善していこうと考えています。



4 環境研究成果の普及推進

島根大学における環境関連の研究成果は、学会、講演会、市民講座、マスメディア、インターネットなどを通じて社会に発信しています。

2022年度は、島根大学の研究について市民の皆様に分かりやすく、より身近に感じてもらうため、オンラインにより「サイエンスカフェ」を6回開催し、延べ222名の参加者がありました。今後は、取り上げる発表テーマをSDGs目標に偏りがでないように選定します。また、全17のSDGs目標をカバーするために、目標の中でまだ取り上げられていない目標に関連した研究についても2023年度以降発表していきます。



オンラインによるサイエンスカフェの様子

さらに、島根大学の研究者が地域貢献に資するあらゆる連携や、企業及び学内外の研究機関との共同研究を促進するために活用いただくことを目的として、本学ホームページに「共同研究のための島根大学研究データベース」を開設しました。これらの取組を通して、環境分野を含めた島根大学の研究成果等を広く社会へ発信していきます。

「共同研究のための島根大学研究データベース」URL
<https://www.staffsearch.shimane-u.ac.jp/kenkyu/sangaku>



共同研究のための島根大学研究データベース（検索画面）

大学憲章に基づき、自然と共生する豊かな社会の発展に努めるために、環境方針を定め、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進しています。

① 島根大学憲章

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、専門の学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努める。とりわけ、世界的視野を持って、平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成することを使命とする。

この使命を実現するために、島根大学は、知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。

1. 豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学は、深い教養に裏づけられた高い公共性・倫理性の涵養を教育の基礎に置き、現代社会を担う高度な専門性を身につけた人材の養成を行う。

島根大学は、学生が、山陰の豊かな自然、歴史と文化の中で、学修や関連する諸活動を通して積極的に社会に関わりながら、自ら主体的に学び、自律的人格として自己研鑽に努めるための環境を提供する。

2. 特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進

島根大学は、社会の多面的要請に応えうる多様な分野の研究を推進するとともに、分野間の融合による特色ある研究を強化し、国際的に通用する創造性豊かな研究拠点を構築する。

島根大学は、社会の要請に応え、地域課題に立脚した特色ある研究を推進する。

3. 地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進

島根大学は、教育・学修、研究、医療を通して学術研究の成果を広く社会に還元する。

島根大学は、市民と連携・協力して、地域社会に生起する諸課題の解決に努め、豊かな社会の発展に寄与する。

4. アジアをはじめとする諸外国との交流の推進

島根大学は、地域における国際的な拠点大学として、アジアをはじめとする国際社会に広く目を向け、価値ある情報発信と学術・文化・人材の交流を推進することによって、国際社会の平和と発展に貢献する。

5. 学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

島根大学は、真理探究の精神を尊び、学問の自由と人権を尊重するとともに、環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える。

島根大学は、学内外の意見を十分に反映させつつ透明性の高い、機動的な運営を行う。

2 島根大学環境方針

島根大学憲章に基づき、全ての教職員および学生等の協働と、最適なワークライフバランスのもと自然と共生する持続可能な社会の発展をめざして、以下の活動を積極的に推進します。

1. 環境改善に資する豊かな人間性、能力を身につけ、世界全体を視野に入れた環境改善を学び行動する人材を育成します。
2. 研究成果による環境改善、その普及により、大学内の環境のみならず、市民とも協働して地域環境および地球環境の改善に努めます。
3. 環境と人が調和するキャンパスマスタープラン作成により、知と文化の拠点にふさわしい教育・研究およびキャンパスライフに快適な学内環境を構築します。
4. 省資源、省エネルギー、リサイクル推進、グリーン購入および化学物質等の適正管理により、汚染の予防と継続的な環境改善を行って、環境関連の法令順守を徹底し、環境に配慮した教育、研究、医療に努めます。

2015年4月1日（第5版）

島根大学長 **服部泰直**



https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/ems/ems_policy/

3 環境マネジメントシステム（EMS）によるこれまでの主な取組

1999年	<ul style="list-style-type: none"> ・学長が開学50周年を契機に「キャンパス環境キャンペーン」を提言 ① 環境保全型大学運営を推進するための調査検討、② ISO14001取得事前検討、③ 環境研究の推進、④ 環境教育の推進
2001年	<ul style="list-style-type: none"> ・松江キャンパスにおいて、環境委員会およびキャンパス・アメニティー専門委員会を設置
2004年	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年度末までに環境マネジメントシステム（EMS）を構築する旨を明示した中期目標・計画の認可 ・役員会において、環境マネジメントシステム（EMS）構築にはISO14001の認証取得を基本方向として検討を進める旨を決定 ・環境委員会においてISO14001の認証取得を目指す旨を承認
2005年	<ul style="list-style-type: none"> ・学長による「環境方針」公表 ・松江キャンパス及び出雲キャンパスにおいてEMS実施委員会の設置
2006年	<ul style="list-style-type: none"> ・松江キャンパスにおいて、ISO14001認証取得、「松江市環境保全功労表彰」の受賞
2007年	<ul style="list-style-type: none"> ・松江キャンパスにおいて、ISO14001定期審査合格および範囲拡大審査認証取得
2008年	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲キャンパスにおいて、範囲拡大審査認証取得（附属病院を含む総合大学としては全国初の認証取得） ・「第11回 環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門 優秀賞（環境省及び財地球・人間環境フォーラム主催）」受賞
2011年	<ul style="list-style-type: none"> ・「第14回 環境報告書賞 公共部門賞（東洋経済新報社及びグリーンポータリングフォーラム共催）」受賞
2012年	<ul style="list-style-type: none"> ・島根大学『省エネルギー宣言』公表
2013年	<ul style="list-style-type: none"> ・松江キャンパスEMS改善委員会の設置
2015年	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境方針」の改定
2018年	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲キャンパスにおいてISO14001 2015規格への登録改訂
2022年	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲キャンパスにおいて、ISO定期審査合格

4 環境マネジメントシステム（EMS）の見直し

島根大学では、「教職員・学生による内部監査」、「外部機関による審査」及び「経営陣による環境マネジメントシステム（EMS）見直し」の取組により、環境マネジメントシステム（EMS）の見直しを行っています。

「教職員・学生による内部監査」では、出雲キャンパスにおいて、環境マネジメントシステム（EMS）活動が計画に沿って実施されているか、自ら定めた手順を遵守しているかなどのチェックを年1回実施しています。

2020年度からの新型コロナウイルス感染症対策により、内部監査員を養成する研修を中止したこともあり、教職員6名が内部監査員として2チームの編成により対象部局を監査しました。

2022年度の内部監査では、不適合事項は発見されませんでした。不適合が発見された場合は直ちに改善を行い、2023年度の内部監査でフォローアップすることとなります。島根大学では、不適合事項を発見するだけでなく、良い事例も「有効事例」として報告することで、他の部署等でも活用できるよう工夫しています。

内部監査結果については、水平展開を図るべくアンケート調査を行い、類似の不適合が確認された場合は改善するよう相互に報告することで、内部監査をより効果的に運用しています。

「外部機関による審査」として、2022年8月に財日本品質保証機構（JQA）による定期審査が行われました。審査では、従前より運用していた「化学物質管理・取扱いマニュアル」を松江キャンパスまで拡大したことなど含む計7件のグッドポイントの報告がありました。

「化学物質管理・取扱いマニュアル」は、以下URLにて公開しています。

https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/ems/waste_matsue/waste_matsue10.html



出雲キャンパスでは、2007年度に取得したISO14001認証を、ISO認証の外部審査項目をクリアするだけではない、柔軟な新しい環境マネジメントシステム（EMS）体制を構築したことに伴い、2023年8月にISO認証を終了しました。

「経営陣による環境マネジメントシステム（EMS）の見直し」では、キャンパスごとに最高経営者である学長による学長マネジメントレビューを実施しています。

学長に対し、年間の活動報告、法令遵守等必要な情報を提供し、その後、今後の継続的改善に向けた提言も行われました。

学長による見直し結果は、以下のとおりです。今後、この結果に基づき、より良い継続的改善につなげていきます。



オンラインによる学長マネジメントレビューの様子

松江キャンパス

見直しを図るために提供した情報	学長からの主な提言
<ul style="list-style-type: none"> ・改善委員会の取組に関する情報 ・各部局での取組内容の評価 ・前回のマネジメントレビューのフォローアップ結果 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境方針の変更及び改善の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・本学のSDGsの方針を踏まえ、SDGsにおける環境マネジメントシステム（EMS）活動の位置付けを明確にし、引き続き環境マネジメントシステム（EMS）活動に取り組んでいく必要がある。 2. 目的及び目標の変更及び改善の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・部局間におけるSDGs、環境マネジメントシステム（EMS）活動に対する意識の差、取組みの固定化を解消させるため、各部局における環境マネジメントシステム（EMS）実施内容（計画）を複数項目設定するのではなく、各部局における専門分野、得意分野などの項目に集中させ、環境マネジメントシステム（EMS）活動の意識の向上に繋げる必要がある。 3. 環境マネジメントシステム（EMS）のその他の要素 <ul style="list-style-type: none"> ・特別副専攻（環境教育プログラム）については、設置から10年が経過する中で、社会や学生のニーズが変化してきており、プログラムの見直しが求められてきている。可及的速やかに、SDGsとの関連などのニーズに対応でき、かつ、持続可能なプログラムに向けた見直しを開始する必要がある。

出雲キャンパス

見直しを図るために提供した情報	学長からの主な提言
<ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステム（EMS）に関連する学内外の課題 ・遵守義務を含む利害関係者のニーズ及び期待 ・著しい環境側面 ・リスク及び機会 ・環境目標の達成度 ・不適合及び是正措置の状況 ・監視及び測定の結果 ・遵守義務の達成度 ・内部監査及び外部審査の結果 ・資源の妥当性 ・利害関係者等のコミュニケーション ・継続的改善の機会 ・前回のマネジメントレビューのフォローアップ結果 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境マネジメントシステム（EMS）が引き続き適切、妥当かつ有効であることに関する結論 <ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステム（EMS）活動は概ね順調に実施している 2. 継続的機会に関する決定 <ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステム（EMS）は引き続き維持するとともに、SDGs、カーボンニュートラルに関する全学的なロードマップを作成中であるので、松江キャンパスと歩調を合わせて、協力いただきたい。 3. 資源を含む環境マネジメントシステム（EMS）の変更に関する決定 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境マネジメントシステム（EMS）体制の検討を行い、その定着を図る。 4. 環境目標が達成されていない場合の処置 <ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステム（EMS）活動は概ね順調に実施している。焼却炉廃炉に伴う廃棄物処理は外部搬出による処理に変更されたため、特に医療系廃棄物は適正に処理できるよう、学内での処理方法は継続した周知により、徹底するようにしていただきたい。 5. 他の事業プロセスへの環境マネジメントシステム（EMS）統合を改善するための機会 <ul style="list-style-type: none"> ・利害関係者等のコミュニケーションを行いながら、新しい環境マネジメントシステム（EMS）体制の維持を図る。 6. 組織の戦略的な方向性に関する示唆 <ul style="list-style-type: none"> ・現行の認証による環境マネジメントシステム（EMS）活動は教職員から高い評価を得ているため、そのレベルは維持したうえで出雲キャンパス独自の環境マネジメントシステム（EMS）活動の議論を深めた後に、新体制に移行することはやぶさかではない。

5 2022年度の環境目的・目標評価結果

島根大学では、キャンパス毎に環境目的・環境目標を定め、各部局等が立案した計画に対し、それぞれが取り組んだ結果について、松江キャンパスではEMS改善委員会において、出雲キャンパスではEMS実施委員会において、共通の評価基準に基づき評価を行っています。

【評価基準】

- ◎：環境目標の内容を全て達成するとともに、一部環境目標の内容以上に達成した取組がある
- ：環境目標の内容を全て達成している
- △：環境目標の内容を一部達成した取組がある
- ×：環境目標の内容を全て達成していない

このうち、松江キャンパスでは、実施内容を踏まえ、他部署等でも実施してほしい事項をグッドポイントとしてまとめ周知する工夫を行っています。

松江キャンパス

①環境教育

- 環境目的：学生の環境リテラシーを高める。
- 環境目標：
 1. 特別副専攻「環境教育プログラム」の達成目標を達成する。
 2. 学部又は学科のDP・CPの中にある環境要素を実現する。
 3. 教育受講者の範囲拡大を通じ、ごみ分別ルールの徹底を図る。

部 局	評価	主な実施内容	グッドポイント
法文学部	△	・教職員に対しては教授会にて、新入生に対してはオリエンテーションにて、在学生に対しては新年度に行われるガイダンス等において基本教育を実施しました。	教職員、学生、在学生に対する環境マネジメントシステム（EMS）基本教育について、実施体制が確立され、ルーチン化できている点について評価できます。
教育学部	△	・松江市内の小学校の野外学習を通して、自然環境を学ぶ機会を提供することができました。また、環境寺子屋の活動として、松江市と共同で「親子で学ぶ松江城環境学習」を実施し、学習の様子をBSS山陰放送の番組を通して放送していただきました。P.5参照	教育学部の学生が小学校の野外活動や松江市との環境学習を通して、環境及びSDGsのことを学べる機会を設けることができた点、松江市及びBSS山陰放送を通じて広報活動について評価できます。
人間科学部	△	・新入生オリエンテーションにおいて、資料配布等により基本教育を実施し、オンラインツールを使用したアンケートおよびクイズを用いて、基本教育の理解度を確認しました。	教職員、学生に対し、オンラインツールを利用した環境マネジメントシステム（EMS）基本教育を実施したこと、また、アンケート及びクイズを用いて環境マネジメントシステム（EMS）基本教育の理解度を確認した点について評価できます。
総合理工学部	△	・各学科において、それぞれの専門性に合わせた授業において環境教育が実施されました。例えば、循環型社会における産業界の地球環境保全に対する取組みを学ぶ授業（SDGsの6, 11）などです。授業も講義だけではなく、実験や野外実習など様々な形式で行いました。講義形式の授業においても、図表やビデオ教材、資料等を用いて、学生の理解を深める工夫を行いました。	SDGsと紐づけた環境教育を正課の授業に組み込むことで、それぞれの専門性に合わせた特色のある教育が実施できたこと、授業評価アンケートの結果等を活用し、環境教育の質的向上を図っている点について評価できます。 また、新入生オリエンテーションにおいて環境マネジメントシステム（EMS）基本教育をオンデマンド配信し、より多くの学生が受講できるよう配慮した点についても評価できます。
生物資源科学部	△	・Moodleにおいて、ごみの分別に関するアンケート及びクイズを実施しました。分別を問うクイズに全て正解した学生は1名のみであり、学内ルールを正しく認識していないことがわかりました。	アンケート及びクイズを用いて環境マネジメントシステム（EMS）基本教育の理解度を確認できた点について評価します。また、新入生に対する環境教育は、今回実施した後期に加え、入学初期段階でも実施できるとより良いと思います。
大学教育センター	◎	・一部授業はハイブリッド型の授業として実施しました。 ・2022年度から全学共通教育の社会人力養成科目に、SDGsの歴史・理論を学び、実践者の育成を目的とした「SDGs概論」を新規開講し、53名が受講しました。	オンデマンドでハイブリッド型の授業を開講したことについて評価できます。 また、科目に「SDGs概論」を新規開講し、本学のSDGsの推進に貢献するものであり評価できます。

②環境研究

- 環境目的：環境研究成果の普及を推進する。
- 環境目標：大学の研究活動を周知し、市民等の環境意識を高める。

部 局	評価	主な実施内容	グッドポイント
法文学部	△	・自然エネルギーに関する「学生“自分ごと”宣言」を松江市長に提案し、意見交換を行いました。 ・行政学ゼミでは、「いいふうどプロジェクト」と題して、有機農法での農作にチャレンジし、取組みの様子は、Instagramで発信しています。	松江市の企画する環境活動への参加、また、その様子をSNS等の利用により、学外へ広く発信している点について評価できます。
教育学部	○	・昨年度、松江市との連携協力のもと、食品ロス削減の小学校向け動画教材を作成し、2022年度はそれを用いて小学校にて授業を行いました。	松江市と作成した動画教材を用いて、学生が小学生を対象に実践教育を行ったこと、それらの研究活動を卒業研究としてまとめることができたことについて評価できます。
総合理工学部	△	・「山陰防災フォーラム」を開催しました。	コロナ禍により、研究成果の発表機会が依然として少ない中、大学の研究活動を学外へ周知した点について評価できます。
生物資源科学部	◎	・2021年に引き続き、高温好気発酵装置により食堂から排出される食品廃棄物の肥料化を行い、約2トンの肥料を得ました。 ・食堂の廃棄物は油分が極めて多いことから、石灰窒素を用いた分解促進について検討しました。 ・得られた肥料の肥効について、4年生が卒業論文に取り組みました。 ・「キャンパスト」として登録した肥料を玉湯マルシェおよび松江市農林水産祭で販売しました。P.5参照	島根大学生協食堂から排出される食品廃棄物を100%肥料化した点、学生がこの肥料に関する卒業論文に取り組んだ点などについて評価できます。また、本学のSDGsの推進にも貢献しており評価できます。
3 環境 マネジメント 対応委員会	◎	・島根大学の研究について、市民の皆様に分かりやすく、より身近に感じてもらうため、「サイエンスカフェ」をオンラインにより開催しました。また、アンケートを実施し、次回開催する際の参考事項としました。 ・本学ホームページに「共同研究のための島根大学研究データベース」を開設しました。SDGsの17の目標に関連した研究テーマも多数掲載しています。P.8参照	研究テーマをSDGsと関連付けていること、オンライン開催により県外からの参加者が増えたこと、幅広い世代に参加いただけたことが評価できます。また、アンケートを実施することによって参加者の感想や要望等を把握し、次回開催への参考にしていることも評価できます。さらに、SDGsの全17の目標をカバーすることを目指している点は、本学のSDGsの推進に貢献するものであり評価できます。

③エネルギー

- 環境目的：電力・ガス・重油・水道の消費に伴うCO₂の排出を抑制する。＜前年度比 3.0% 削減＞
- 環境目標：1. 「島根大学における令和4年度の省エネルギーの取組みについて」を6月に策定し、これに沿った取組を行う。
2. エネルギー使用合理化等に関する法律に基づき中長期計画による省エネ設備改善を実行する。

部 局	評価	主な実施内容	グッドポイント
法文学部	○	・玄関等の蛍光灯を間引きしました。 ・授業期間中は、教室等の照明やエアコン、換気扇の消し忘れがないか建物内を巡回します。 ・冷暖房の運転開始の連絡と併せて、省エネの協力をメール等で依頼しました。	蛍光灯の間引き、教室等の照明やエアコン、換気扇等の消し忘れの確認、継続した節電の呼びかけなどを行い、教職員の省エネへの意識が高まってきている事について評価できます。
教育学部	○	・節電、冷暖房などの省エネ対策について、教職員に向けては教授会にて周知を行いました。また、一部の教室についてはエアコンフィルターの清掃を行いました。	掲示板や講義室へ節電周知のポスター掲示、エアコンフィルター清掃など、基本的な取組みが継続して行われている点について評価できます。
人間科学部	○	・研究室や教室に節電を周知するためのポスターを掲示しました。 ・例年通り、エアコンフィルターを清掃しました。	研究室や教室に節電の周知用ポスターの掲示、休憩時間の不要な照明の消灯、長期休業中の講義室等のエアコンフィルター清掃など、省エネについて意識が根付いてきている点について評価できます。

総合理工学部	○	<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントシステム（EMS）基本教育や教授会において、節電に関する周知・啓発を行いました。 蛍光灯の間引き、不要な照明の消灯、タイマー設定によるエアコンの夜間自動停止を行いました。 一部の講義室等のエアコンのフィルター清掃を実施しました。 学部共通の講義室のエアコン稼働時間を8時～19時と定め不要な電力利用を防ぎました。P.24参照 2022年度の電気使用量は、2013年度と比べ、14.8%削減しました。 	<p>学生及び教員への節電に関する周知・啓発、蛍光灯の間引き、不要な照明の消灯、エアコンのタイマー設定などの取組など、省エネへの意識が根付いてきている点について評価できます。また、これらの取組による節電の効果が定量化できている点についても評価できます。</p>
生物資源科学部	◎	<ul style="list-style-type: none"> 各建物での月ごとの電気使用量と、過去5年間の電気使用量推移を評価しました。例年通り該当期間も夏と冬に電力使用量が増える傾向が見られ、またコロナによる規制の解除で、数年間一時的に低下していた電気使用量が、やや増加しつつある傾向が見られました。 	<p>電力消費モニターシステムから過去6ヶ年分の電気使用量について比較検討を行い、結果を各建物の玄関口等に掲示して周知している点について評価できます。また、電気使用量のグラフにおいて、月ごとの推移を棒グラフ以外の表記に変更するなど、従来のEMSニュース読者以外の興味・関心を引き立てれるとより良いと思います。</p>
3環境 マネジメント 対応委員会	○	<ul style="list-style-type: none"> 照明に関しては、事務室内の必要な区域を除き消灯しました。 エアコンに関しては、温度設定に注意し、扇風機を併用し、ウォームビズ等を行いました。また、フィルターを定期的に清掃しました。 エレベータの使用は、障がい者等階段利用が困難な者を除き、荷物を運搬するとき等必要最小限の範囲での利用としました。 	<p>不必要な照明の消灯、冷房、暖房の調節について、エアコンの機能だけに依存せず、扇風機等の利用や窓の開閉等多様な手段で工夫をしており、身近なところから無理のない範囲で省エネへの意識が高まっていく点について評価できます。</p>
事務局	○	<ul style="list-style-type: none"> 照明は、不在時の消灯を行いました。 エアコンは、適切な温度管理を行うとともに、扇風機を活用しました。また、冷暖房使用開始前と大掃除の際にフィルターの清掃を行いました。 荷物運搬等必要な場合を除き、エレベータの使用は極力避け、階段を使用しました。 	<p>職員が省エネ意識を共有できるよう節電ポスターを掲示し、エアコンの温度管理、フィルターの清掃など、省エネへの意識が根付いてきている点について評価できます。</p>

④ 3R（リデュース・リユース・リサイクル）

- 環境目的：3Rの推進により環境負荷を低減する。
- 環境目標：1. 廃棄物の発生を抑え、使用済み物品等を繰り返し利用する取組を推進する。
2. 生活系ごみ分別や資源ごみの分別の徹底を行い、リサイクル製品を積極的に利用する。

部 局	評価	主な実施内容	グッドポイント
法文学部	△	<ul style="list-style-type: none"> 学生及び教員に対して、基本教育を実施し、ごみの分別の周知を行いました。 事務室、印刷室、メールボックス室に古紙回収用のボックスを設置し、可燃ごみの削減に努めました。 	<p>学生及び教職員へごみの分別の周知を行い、減量化を図る取組を継続して行うことで、廃棄物の削減など、環境への意識向上に繋がっている点について評価できます。</p>
人間科学部	△	<ul style="list-style-type: none"> ごみの分別方法について、掲示により周知しました。 研究室にごみ箱を設置し、生活系ごみを分別して捨てることできるようにしました。 アンケート等の中で、資源ごみの分別についての設問を設けました。P.25参照 	<p>適切にごみを分別するため、分別方法の掲示による周知及び学生研究室へごみ箱を設置した点、アンケート及びクイズを行い、3Rに対する意識付けを行った点について評価できます。</p>
事務局	○	<ul style="list-style-type: none"> 片面印刷の不要紙は、コピー機の手差しトレイにセットし使用しました。 ペーパーレス会議の利用を拡大しました。 ごみの分別状況の確認を毎週行いました。P.22参照 	<p>裏紙の再利用、ペーパーレス会議の利用拡大、ごみの分別状況の確認が行われた点において評価できます。</p>

⑤実験系

- 環境目的：有害物質による環境汚染を予防する。
- 環境目標：学外放流水の水質を法定基準，自主基準内に保つ。

部 局	評価	主な実施内容	グッドポイント
総合理工学部	△	・環境マネジメントシステム（EMS）基本教育の際、緊急事態対応テストの動画を活用しました。 ・昨年度に続き、理解度チェックのためにMoodleでの確認テストを実施しました。	環境マネジメントシステム（EMS）基本教育において、緊急事態対応テストの動画を活用した廃液の処理方法等に関する周知・啓発の実施やMoodleを用いた確認テストの実施により理解度を確認している点について評価できます。
生物資源科学部	△	・教職員および学生に対する安全衛生教育を実施しました。 ・令和4年に実施した、実験排水最終ポンプ槽の水質検査について、クロロホルムが自主基準0.06mg/L以下に対して、0.075mg/L検出されました。この点について、実験器具の洗浄不足や流し台への実験系廃注意を喚起しました。	排水検査における自主基準超過を速やかにEMSニュースとして取扱い、学部内に広く周知した点について評価できます。

⑥キャンパス・アメニティ

- 環境目的：快適な学内環境の構築する。
- 環境目標：安全・安心で持続可能なキャンパス環境の充実を図るとともに、地域に開かれ愛されるキャンパスとしてアメニティの向上や地球環境にやさしいエコロジーキャンパスの創造を推進する。

部 局	評価	主な実施内容	グッドポイント
教育学部	△	教育学部棟の正面玄関等の花壇を整備しました。P.28	正面玄関等の花壇の維持管理を継続して行うことにより、快適なキャンパス空間を演出している点について評価できます。
事務局	△	放置自転車撤去活動及び駐輪指導を実施しました。	放置自転車の撤去作業，駐輪指導を行うなど環境美化に関する取組みを継続して行っている点について評価できます。

出雲キャンパス

①環境教育

- 環境目的：環境に配慮した人材を育成する。
- 環境目標：環境実践活動を実施し，実践的態度を高める。

評価	主な実施内容	実施結果
△	学生の自主的活動（学生EMS推進委員会議の定期的開催，学生EMSニュース，植栽の継続，キャンパスウィークへの参加等）の支援	不適切駐車対策として行うプランター・鉢植えへの植栽，自転車のリユースやビビットあーとコンテストへの参加は実施できたが，新型コロナウイルス感染症流行による大学施設への入構制限時期もあり，例年実施している活動のうちオープンキャンパスに合わせて実施するキャンパスクリーンウィークは低調となった。

②環境研究

- 環境目的：環境研究を推進して，その成果を社会へ還元する。
- 環境目標：環境研究の普及策を実施する。

評価	主な実施内容	実施結果
○	環境に関する市民公開講座を行政，地域と連携して計画し，開催する。	市民公開講座のテーマを「賢い消費者になろう！～健康食品の上手な選び方，使い方～」とし，市民の関心が高いものとする事で，前年に引き続き一定数の参加者が集まり，関心の高さが伺えた。また，医学部版環境研究出前講義と位置付け可能なものとした。
○	環境に関する市民公開講座開催の効果的な周知方法を検討し，実施する。	

③エネルギー

- 環境目的：二酸化炭素排出量を削減する。
- 環境目標：二酸化炭素排出量を削減する。

評価	主な実施内容	実施結果
△	電力：不在時の消灯・節電の管理・空調の温度管理 ガス：エコ発電機の効率管理・空調の温度管理 重油：重油燃料自家発電機の効率管理・焼却炉設備の効率管理 水：水使用量の削減 P.21～23参照	エネルギー消費量については、2019年度比で電力が0.4%減、都市ガスは16%増、A重油は14.6%減で、全体（電力量+都市ガス+A重油）の熱量は5.4%増加した。また、上水道使用量は4.7%減少した。熱量増加の要因として、夏季の猛暑により、自家発電設備の稼働が著しかったことが挙げられる。また、2019年度と比較してCO ₂ 排出量は4.7%増加した。

④生活系

- 環境目的：一般廃棄物の排出量を低減する。
- 環境目標：大学・病院へ出入りする人々の環境配慮に対する意識を高め、一般廃棄物の排出量を低減する。

評価	主な実施内容	実施結果
○	一般廃棄物の排出量、リサイクル量、ペットボトルキャップの回収量、運用管理点検結果を集計し、ホームページ等で公表する。	四半期ごとに集計し、環境データとしてホームページで公表した。
○	大学・附属病院への出入業者に対して3Rの実践を通した一般廃棄物の排出量低減について、EMS事務局を通して協力を要請する。	5月に大学・附属病院への出入業者に対して3Rの実践を通した一般廃棄物の排出量低減について、EMS事務局を通して協力を要請し、受領書によりその意思を確認した。

⑤実験系

- 環境目的：実験系廃液の環境への排出を減らす。
- 環境目標：廃液回収量の管理

評価	主な実施内容	実施結果
△	実験廃液手引書（個別回収と混合・中和禁止）の周知・教育した。	化学物質管理システムの運用に合わせた手引書の改訂を検討する。
○	緊急事態に対する対応と連絡体制を周知し、教育・訓練した。P.28参照	放射性同位元素の漏洩等の緊急事態発生時に適切な対応をするためのシステムを確認した。

⑥診療系

- 環境目的：感染性医療廃棄物の適切な分別管理
- 環境目標：
 1. 医療廃棄物の分別を徹底し、感染性廃棄物による曝露を防止する
 2. 廃棄カート管理・運用を徹底し、感染性廃棄物による曝露を防止する

評価	主な実施内容	実施結果
○	医療廃棄物の分別状況を確認の上、感染性廃棄物の排出量をモニタリングした。P.26参照	2022年度後期からキャンパス内で発生する廃棄物を全て外部へ搬出し、委託業者により処理することになり、2022年度の感染性産業廃棄物量は2021年度と比べて260%と大きく増加した。
○	廃棄物用カートをの管理し、運用点検した。	廃棄カートの管理で問題となる点は確認されず、廃棄物カート運用に伴う感染性廃棄物による曝露報告もなかった。

05 グリーン購入の促進

島根大学では、循環型社会の形成のため、再生品の活用などの供給面の取組に加え、需要面からの取組が重要であるという観点から、制定された「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」を遵守し、環境負荷の少ない製品・サービス等の調達を推進するとともに、その実績を関係省庁に報告し、島根大学のホームページにおいても公表しています。

1 グリーン購入の方針

島根大学環境方針（P.10参照）に基づき「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を定め、物品・役務の調達に当たっては、環境負荷の少ない製品・サービス（グリーン購入法に定める特定調達品目）等の調達に努めています。

2 グリーン購入・調達の状況

特定調達品目計24分野のうち、設備・公共工事の計5分野を除き、2022年度の島根大学における特定調達品目の調達実績を調査しました。このうち、特定調達品目を調達した19分野・163品目の実績は次表のとおりです。

2022年度における特定調達品目の調達実績

No.	分野	主な品目	総調達量	特定調達物品等の調達量	特定調達物品等の調達率 (%)
1	紙類	コピー用紙, 印刷用紙, 衛生用紙等	51,348.1 kg	51,348.1 kg	100
2	文具類	事務用品, OA用品等	202,129 個	202,129 個	100
3	オフィス家具等	椅子, 机, 什器等	1,408 台	1,408 台	100
4	画像機器等	コピー機, プリンタ, ファクシミリ等	5,565 個	5,565 個	100
5	電子計算機等	電子計算機等	13,444 台	13,444 台	100
6	オフィス機器等	シュレッダー, 一次電池等	6,776 台	6,776 台	100
7	携帯電話等	携帯電話	984 台	984 台	100
8	家電製品	電気冷蔵庫, 冷蔵庫等	107 台	107 台	100
9	エアコンディショナー等	エアコンディショナー, ストープ等	47 台	47 台	100
10	照明	蛍光灯照明器具, 蛍光管	493 本	493 本	100
11	自動車等	公用車, 公用車用タイヤ等	7 個	7 個	100
12	消火器	消火器	29 本	29 本	100
13	制服・作業服等	制服, 作業服	1,568 着	1,568 着	100
14	インテリア・寝装寝具	カーテン等	156 枚	156 枚	100
15	作業手袋	作業手袋	1,102 組	1,102 組	100
16	その他繊維製品	ブルーシート等	189 枚	189 枚	100
17	災害備蓄用品	栄養調整食品, レトルト食品等	3,623 個	3,623 個	100
18	役務	印刷, 輸配送等	4,212 件	4,212 件	100
19	ごみ袋等	プラスチック製ごみ袋	40,313 枚	40,313 枚	100

注1. 各調達数量は、分野ごとの品目全てを集計しています。OA機器の調達量は、リース・レンタルによる数量を含みます。

注2. 紙類のうち、コピー用紙については、契約上の仕様と実際のご紙配合率とに乖離があるものを含みます。

①目標達成状況

島根大学の調達方針において、特定調達品目の調達について目標設定を行った品目は、全て100%目標を達成しています。

②その他の物品、役務の調達に当たっての環境配慮の実績

環境負荷の少ない製品・サービス等の調達の推進に当たっては、できる限り環境に負荷の少ない物品などの調達に努めることとし、環境物品などの判断基準を超える高い基準のものを調達すること、またグリーン購入法適合品が存在しない場合についても、エコマークなどが表示され、環境保全に配慮されている物品を調達するよう努めました。

また、物品などを納品する事業者などに対しても、事業者自身がグリーン購入法を推進するよう働きかけるとともに、物品の納入などに際しては、可能な限り低公害車の利用に努めるよう働きかけています。

今後の物品などの調達においても、引き続き環境物品などの調達の推進を図り、教育研究上の必要性などを考慮しつつ、可能な限り環境負荷の少ない製品・サービス等の調達率100%を目指して取り組みます。

SDGs（エス・ディー・ジーズ）は「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、世界共通の17のゴール（目標）、目標ごとの合計169のターゲットから構成されています。

島根大学SDGs行動指針

島根大学は、大学憲章において“自然と共生する豊かな社会の発展に努める”ことを謳っています。わたしたちは、不断の教育・研究・医療等の活動はもとより、地方創生の推進、平和な国際社会の発展とインクルーシブな社会の実現に寄与する人づくりを通じて、SDGsの達成に向けて活動することにより、持続可能な社会の構築に貢献します。

特に、島根大学の地理的特性を生かし、自然環境の保全・継承のため、地域と強く連携し、あわせて学生のSDGs意識を高める教育に努めます。

令和元年11月14日 国立大学法人島根大学長 服部 泰直

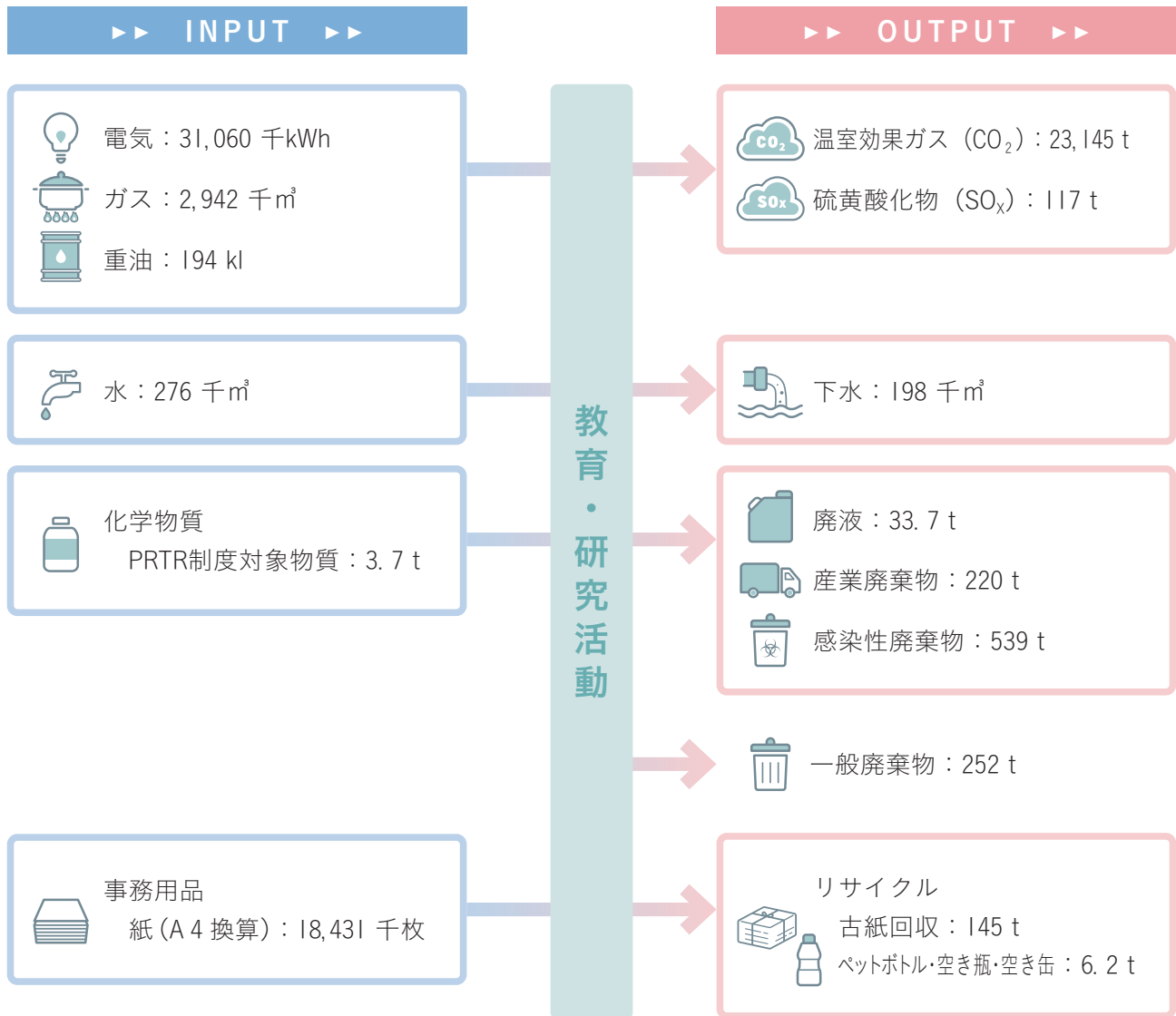
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



I 2022年度のインプット・アウトプット

2022年4月から2023年3月までのエネルギー消費等は以下のとおりです。



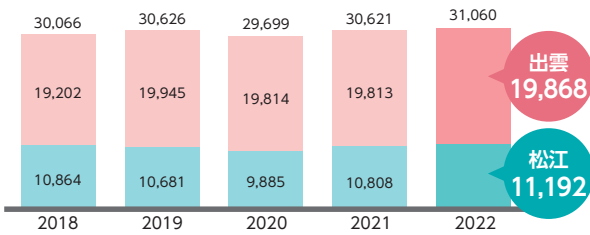
2 エネルギー消費等の経年データ

本学で2022年度に消費された主なエネルギーデータを示します。

2022年度は2021年度と比べ、光熱水費の高騰や授業体制がオンラインから従来の対面へ戻りつつある状況であったことから、エネルギー消費量等は一部を除き増加傾向にありました。

▶▶ INPUT ▶▶

💡 電力使用量(千Kwh)



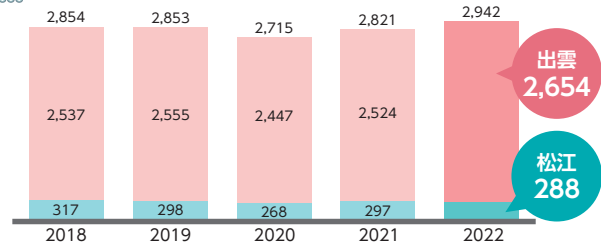
『省エネルギー宣言』を踏まえた「節電実行計画」に基づき、節電に取り組みましたが、全体として前年度比1.4%の増加となりました。

2022年度は、出雲キャンパスの実験動物施設の改修工事において、照明をLED化し、空調設備等を省エネタイプに更新しました。



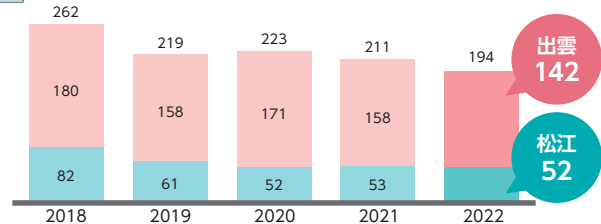
改修した動物実験施設の外観とLED照明

🍷 ガス使用量 (千m³)



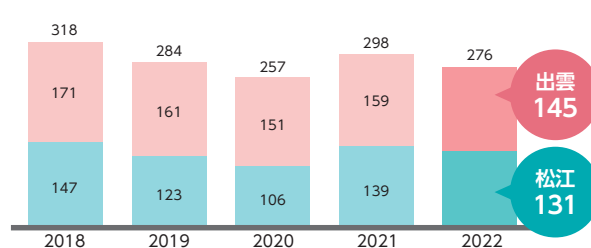
ガスは主に冷暖房エアコンの運転で消費されます。タイマーオフ設定等、不在時の電源オフによる使用量の削減に努めましたが、全体として、4.3%の増加となりました。

🛢️ 重油使用量 (kl)



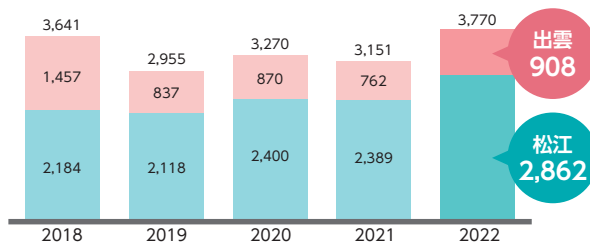
全体として、2018年度以降減少傾向にあります。

💧 上水等使用量 (千m³)



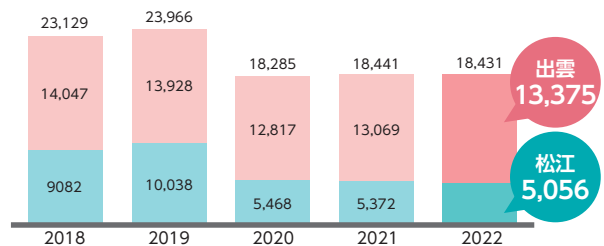
全体として、前年度比7.4%減少しました。

🧴 化学物質投入量 (kg)



全体として、松江キャンパスにおける材料エネルギー学部の新設に向けた準備などにより、前年度比19.6%の増加となりました。

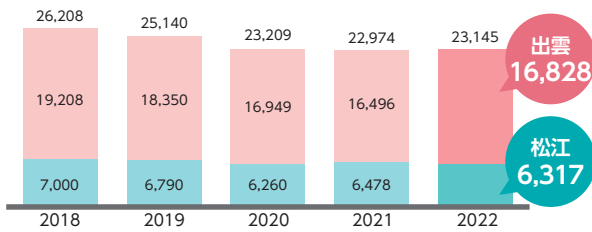
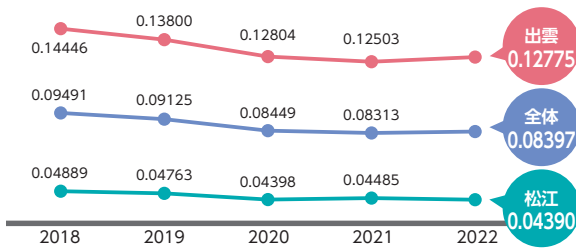
📄 用紙購入量 (A4換算 千枚)



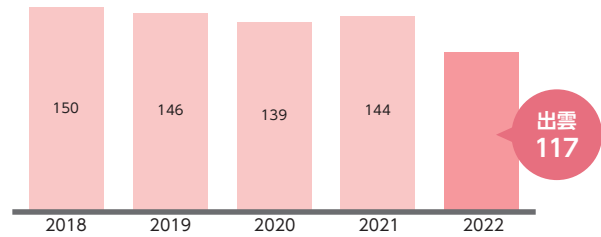
島根大学では、2016年度からペーパーレス会議システムを導入しています。

また、新型コロナウイルス感染症対策によるWEB会議の活用に伴い、全体として、2021年度以降減少傾向にあります。

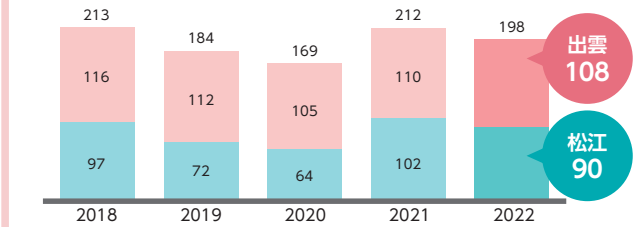
▶▶ OUTPUT ▶▶

CO₂ 二酸化炭素排出量 (t)建物延面積当たりのCO₂排出量 (t-CO₂/m³)

電力及びガスの使用量が増加したことに伴い、全体として、前年度比0.7%の増加となりました。

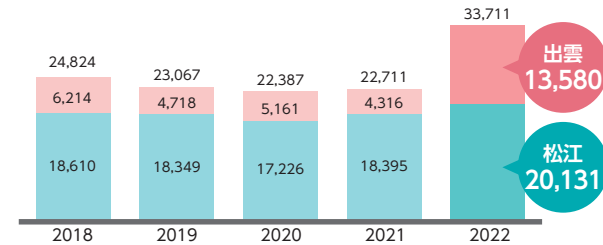
SO_x 硫黄酸化物 (SO_x) 排出量 (t)

2022年度は、出雲キャンパスにおける焼却炉が稼働停止したため、前年度比で約18.2%減少しました。なお、松江キャンパスでは、2018年度からボイラー設備を廃止したことに伴い、SO_xは排出していません。

下水道使用量 (千m³)

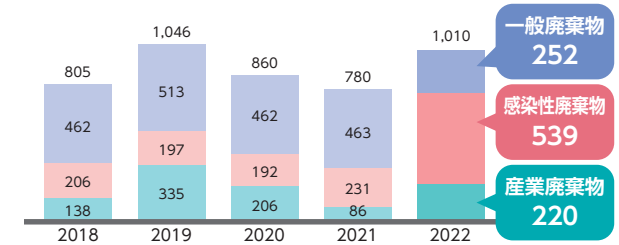
2022年度は、上水等使用量の減少に合わせ、全体として、前年度比6.6%減少しました。

廃液排出量 (kg)



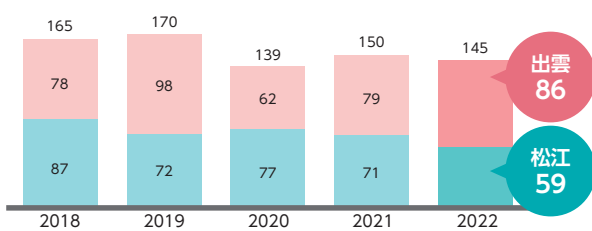
2022年度は、化学物質投入量の増加に伴い、全体として、前年度比48%の増加しました。

廃棄物等総排出量 (t)



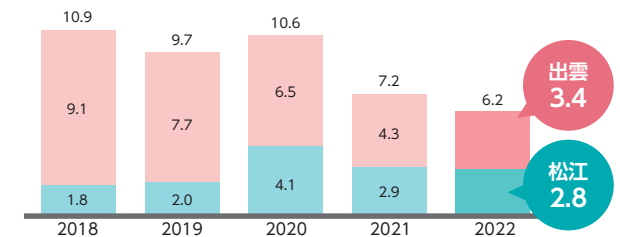
2022年度は、全体として、コロナ禍の制限がない2019年度の水準に近いものでした。

古紙回収量 (t)



用紙購入量と同様に、全体として2021年度以降減少傾向にあります。

ペットボトル・空き瓶・空き缶回収量 (t)



2022年度は、全体として前年度比14.9%の減少となりました。松江キャンパスにおいてはペットボトル回収量が前年度と比べ約0.6t減少したこと、出雲キャンパスにおいては空き瓶回収量が前年度と比べ約0.9t減少したことが要因となります。



1 エネルギー消費の抑制

— 総理工学部における取組 —

電力・ガス・重油・水道の消費に伴うCO₂の排出を抑制するため、以下の活動を実施しました。

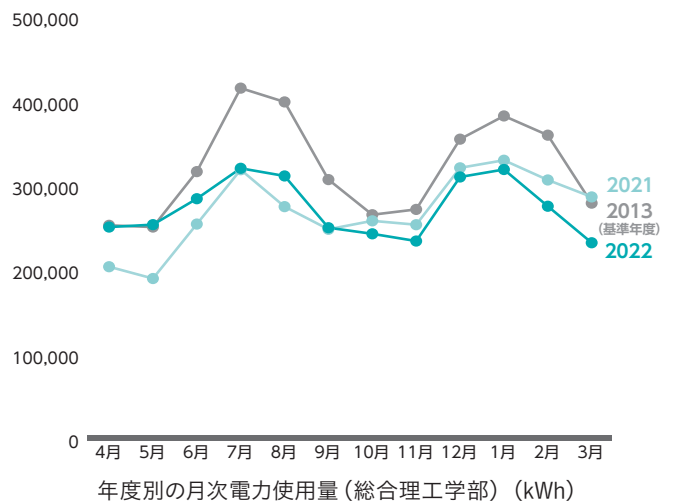
- ・環境マネジメントシステム（EMS）基本教育における、学生への節電に関する周知・啓発
- ・教授会における教員へ節電に関する周知・啓発
- ・蛍光灯の間引き、不要な照明の消灯、タイマー設定によるエアコンの夜間自動停止
- ・講義室等のエアコンのフィルター清掃
- ・学部共通の講義室のエアコン稼働時間を8時～19時と定め、不要な電力利用を防止
- ・夏季休暇中の講義室の施錠により、不要な電力利用を防止

2022年度の電気使用量は、2013年度と比べ、夏季（7～9月）は△239,841kWh（△21.4%）、冬季（12～3月）は△239,515kWh（△17.4%）、年間では△570,811kWh（△14.8%）で、教職員・学生が一体となって環境に配慮した取組を実施した結果、削減することができました。

しかし、前年度比では、夏季は+39,920kWh（+4.7%）、冬季は△107,281kWh（△8.6%）、年間では+38,833kWh（+1.2%）増加しました。

全体として、新型コロナウイルス感染症対策の状況が緩和されたことで、講義室の利用も増え、電力使用量も増加したと思われます。

新型コロナウイルス感染症対策の緩和、材料エネルギー学部の新設などにより2023年度は講義室等の利用がさらに増え、電気使用量も増加すると思われませんが、2023年度以降も継続して節電に取り組みます。



2 環境負荷を低減するための3R等の推進活動

① 法文学部の取組

3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進により環境負荷を低減するため、教職員に対しては教授会にて、新入生に対してはオリエンテーションにて、在学生に対しては新年度に行われるガイダンス等にて基本教育を実施し、ごみ分別の周知を行いました。

また、出雲での「わたしたちにもできるSDGsエシカル・マルシェ」に行政学ゼミとして出展し、エシカル消費（ひと、環境、社会にやさしい商品やサービスを選ぶこと）を広める活動に協力する予定でしたが、台風の影響により、イベントは中止となりました。

引き続き、ごみ分別についての周知や、地域に貢献する活動に取り組みます。



「わたしたちにもできるSDGsエシカル・マルシェ」パンフレット

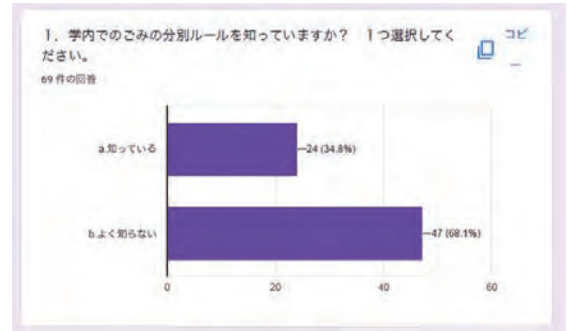


②人間科学部の取組

ごみの分別方法について、掲示により周知しました。また、学生研究室にごみ箱を設置し、生活系ごみを分別して捨てることができるようにしました。

オンラインツールを使用したアンケートおよびクイズの中で、資源ごみの分別についての設問を設けることで、3Rに対する意識付けを行いました。

アンケートの結果を踏まえ、引続きごみの分別方法の周知を実施します。



③島根大学生生活協同組合の取組

—生協学生委員が運営する「Re-Use（リユース）市」—



卒業生から家具・家電を持ち込んでいただき、新入生に無料で譲るというRe-Use市（以下「リユース市」という。）を毎年新学期時期に開催しています。新型コロナウイルス感染症対策の観点やできるだけ多くの申し込みを受けるために、2022年度はオンラインで実施しました。

卒業生からは、机や本棚・コタツなどの家具を中心に提供を受けており、持ち込みが難しい大きなものについては車で回収をおこない、2022年度は82名の卒業生から家具・家電計254点の提供がありました。持ち込まれたものは、生協学生委員がしっかりとクリーニングしました。

新入生からの申込みは生協の受注システムを使用し、持ち込まれた品物の写真を撮り1品ごとに特徴やサイズを記載して分かりやすく掲載し、2つのカテゴリー（A群・B群）に区分けし、新入生はA群・B群から1点ずつ応募できるようにしました。

新入生計104名から応募があり、101名が当選し、242点の引き取りがあり、配達を希望される方には1組500円で生協職員と生協学生委員が配達しました。

この企画は、卒業生から家具・家電の提供が無ければ成立しません。企画の趣旨を理解していただいた卒業生から、多くの物品が今年も提供されたことに感謝しています。

モノを大切にする気持ちを育み、卒業生から新入生へのリユースの輪をつくることのできるリユース市をこれからも続けていきたいと思えます。



卒業生から提供された家具・家電



3 診療に伴う環境負荷の低減 —安心・安全な医療環境の確立—

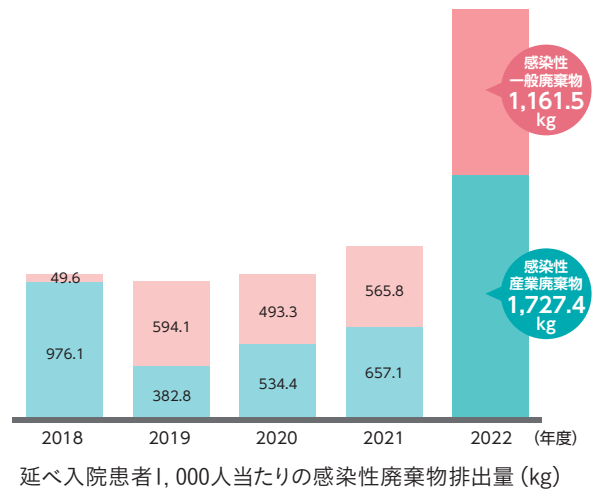
① 医療廃棄物の分別徹底

医学部附属病院は島根県唯一の特定機能病院として、高度先進医療を提供する使命を担っているため、様々な最新の医療機器、医療材料、薬剤などが導入されています。それに伴い医療廃棄物の排出量が多く、分別の不徹底により環境に悪影響を及ぼすことが懸念されます。その中で発生する感染性廃棄物は、医療従事者への曝露あるいは環境への漏出を避けるため、厳密に分別して廃棄ことが要求されます。

感染防止に関わる環境整備状況の確認および指導において、各病棟等における医療廃棄物の分別状況を確認し、全てのスタッフに対し、病院内における厳密な分別廃棄を啓発しています。

医療廃棄物の排出量を集計した結果、2022年度の感染性産業廃棄物量は322,204kg（前年度比160%増）、感染性一般廃棄物量は216,646kg（前年度比103%増）、全体では538,848kg（前年度比134%増）となりました。主な増加要因としては、感染性廃棄物の分類方法が2022年度から大きく変わったことによるものです。これまでは、出雲キャンパス内の焼却炉において焼却していたものを、外部委託を行うために専用の容器に入れ、定期的に専用容器と共に外部委託処理しています。

患者数の増加や医療安全および感染予防の面から、ディスプレイ製品の使用を推進しているため、感染性廃棄物の排出量の増加はやむを得ませんが、廃棄物の適正な管理が重要であり、現場に出向き、廃棄物の厳密な管理・運用を行うよう継続的に啓発しました。



② 出雲キャンパス内焼却炉の稼働停止

出雲キャンパスでは、1998年に現在の焼却炉を設置し、キャンパス内で発生する可燃物を中心に一般廃棄物を処理してきました。以降、25年間に渡り、廃棄物を処理してきましたが、近年は適正なメンテナンスを行ってもなお、故障が発生するようになりました。焼却炉の更新も検討しましたが、同程度の焼却炉の調達ができなかったため、2022年9月をもって、焼却炉の稼働を停止しました。

2022年10月からは、出雲キャンパス内で発生する全ての廃棄物がキャンパス外での処理となったため、廃棄物の処理方法を見直したうえで廃棄物処理マニュアルを改訂し、2022年9月から試行を始め、10月以降完全に新しい運用に移行しました。



稼働を停止した出雲キャンパス内の焼却炉

4 環境関連法規制等の遵守状況



島根大学では、環境に関連する法令を含め、全ての法令を遵守するため、年2回、法規制等の改正状況を確認し、必要に応じて、学内規程に反映しています。

(1) 環境関連法規制

島根大学に関連する主な環境法令等は、以下のとおりです。

主な環境法令等
大気汚染防止法
環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）
下水道法
水質汚濁防止法
浄化槽法
消防法
毒物及び劇物取締法
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR制度）
エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（PCB特措法）
高圧ガス保安法
電気事業法
労働安全衛生法
医療法
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）

(2) 核燃料物質等の管理等に関する取組状況

本学では、「国立大学法人島根大学における核燃料物質等の取扱いに関する行動計画」を定め、核燃料物質の安全な管理および使用に関する様々な取組を実施しています。

2022年度は、以下の事項を実施しました。

- 核燃料物質使用希望者には、島根大学moodleによる、核燃料物質等の適切な管理・使用のための研修を実施し、理解度確認テストの受講を毎年1回義務付けています。

今後も引き続き、適正管理に向けた取組を実施していきます。

5 安全で快適なキャンパスを目指して

教育学部棟周辺の花壇整備

教育学部棟の正面玄関等の花壇を整備することで、快適なキャンパスであることをアピールできるほか、学生にとっても快適な学習環境を提供できました。次年度以降も継続して花壇等の整備を実施します。



教育学部棟周辺の花壇

敷地内禁煙後の喫煙状況の確認パトロール

松江キャンパスは2022年4月1日から敷地内を禁煙としました。

敷地内禁煙後の喫煙者のマナーも含めた本学構内外の喫煙状況を把握するため、安全衛生委員会委員等によるパトロールを6月及び10月に実施しました。

パトロールの結果、敷地内における吸い殻の投棄を確認したため、教職員及び学生に対して注意喚起を行うとともに、キャンパスの各出入口に敷地内禁煙等についての看板を2023年7月に設置しました。

今後も敷地内における喫煙状況を確認し、安全で快適なキャンパス環境の構築に努めます。



喫煙マナーパトロールの状況

6 労働安全衛生の推進

緊急事態発生（放射性同位元素（RI）の漏洩）時の適切な対応を行うためのシステムの確認

RI実験施設の改修に伴い、RI実験施設担当者に漏洩等の緊急事態発生時の対応を確認することを目的に、緊急事態テストを行いました。

RI実験施設担当者から、緊急時に使用する「RI実験施設における緊急時対応マニュアル」の説明を受けました。内容は管理区域内での火災の発生、非密封RIにより被ばくした時等のケース毎の対応が記



RI実験施設担当者による説明



緊急時の使用用品の確認

載され、建物改修を反映した最新版に変更されていました。加えて、マニュアルには緊急連絡先の番号や法令に則った外部連絡先も記載され、部屋の入口等の目につくところに掲示されていました。

さらに、簡易除染用具、汚染掲示用テープ、チョーク、マーカー、汚染処理後の廃棄物の収納容器等の緊急時に使用する用具類の整備状況を確認して、緊急事態テストを終了しました。

前回の緊急事態テストでは、警察、消防署等への連絡体制において、学内の関係部署とのコンセンサスが明確に取れていない部分が見受けられると指摘されていました。理由として、RI実験施設は、出雲キャンパス内にある施設ですが、研究・学術情報本部が管理する施設であるため、医学部長等の医学部管理者を含めた体制の確保が課題となっていました。今回改訂されたマニュアルでは、医学部と研究・学術情報本部などが連携した緊急連絡体制が記載され、連絡体制が確立されていることを確認しました。

前回の緊急事態テスト時に指摘された事項を修正し、建物改修後の状況を踏まえ、最新の内容に改訂し、非常にわかりやすいマニュアルが整備されていました。今後も状況や必要に応じて適切な改訂を行います。

島根大学環境シンボルマーク

島根大学では教育・研究・医療・社会貢献活動を通じて環境問題に取り組んでいます。

このマークに描かれている葉っぱは環境への配慮を、ペンはあらゆる教育を通じて学習し、さまざまな環境問題に取り組んでいく姿勢を表しています。

まさに島根大学の姿勢を表すシンボルマークと言えるでしょう。

島根大学ではこのシンボルマークを環境方針カードに記し、構成員、準構成員(学生)一人ひとりが環境を改善するために何ができるかをカードの裏面に書きとめています。



報告書適用範囲 : 国立大学法人島根大学松江キャンパスおよび出雲キャンパス
報告書対象期間 : 2022年4月～2023年3月
(期間外の事項については当該箇所に明記)
公表方法 : 島根大学ホームページにて公表
HPアドレス : https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/ems/ems_report/
発行年月 : 2023年9月(前回発行年月日:2022年9月)

◆島根大学の環境問題・環境報告書に関するご意見、ご感想をお聞かせください。

島根大学財務部施設企画課

TEL : 0852 (32) 9829

FAX : 0852 (32) 6049

E-Mail : fpd-mkanmane@office.shimane-u.ac.jp